



CAAS

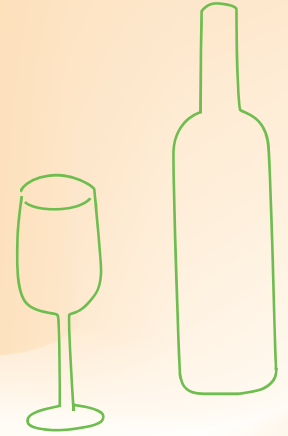
H24年度

ア
フ
リ
カ
地
域
研
究
会

YUKIYA KAWAGUCHI
187



2012/5/31



188

2012/6/21

CHIZUKO
SATO

SUSUMU OKITSU
189

2012/7/19

2012/10/18



190

XIAOGANG
SUN



南アフリカ農産物加工産業への「黒人」の参入と経済力強化
-ワイン産業の事例-



「黒人の経済力強化 (Black Economic Empowerment:BEE)」は民主化後の南アフリカにおける重要な政治的・社会的要請であり、特に2003年に「広範な分野における黒人の経済力強化法」が制定されて以降、さまざまな産業において「黒人」の参入を支援するための取り組みが強化されている。本報告ではワイン産業を事例に2つの参入形態について、それぞれの特徴や政策的支援との関わりを述べた上で、各形態での参入が持つエンパワメントの意味と課題について検討する。

(「Black(黒人)」は、アフリカ系住民、カラード、インド系住民など、アパルトヘイト下で経済的差別を被ってきた人を総称する語として用いられている。)

佐藤千鶴子

日本貿易振興機構
アジア経済研究所
地域研究センター
研究員



第187回

2012年5月31日(木)
15:00-17:00



パスカル=マルティヌ・タユの作品「人間」
(2009年ヴェネツィア・ビエンナーレにて)

国立民族学博物館「彫刻家エル・アナツイの「アフリカ」展(2010)の展示



場をめぐる政治学
-アフリカ美術はどこでかたられてきたか-

この20年ほどのあいだ、同時代のアフリカ美術は世界的に脚光を浴びてきたが、同時にさまざまな問題も明らかになっている。今回は主に、アフリカ美術が展示を通してどこでかたられてきたのか、という「かたりの場」に着目することで、そうした問題の一端に迫り、今後どのような展開がありうるかを考える。

川口幸也

立教大学文学部
教授



第188回

2012年6月21日(木)
13:30-15:30



H23年度京都大学アフリカ研究出版助成記念公演

H23年度総長裁量経費
(若手研究者に係る出版助成事業)

遊牧と定住に生きる
-ケニア・レンディーレ社会の持続と変容-

東アフリカ乾燥地域には、約500万の遊牧民が厳しい自然環境を巧みに利用しながら暮らしてきた。しかし今日、気候変動にともなう自然災害の増加と定住化政策や開発援助の影響を受けて、遊牧民をとりまく自然と社会環境が大きく変動している。遊牧は脆弱で時代遅れの生業なのか。本発表は、北ケニアの遊牧民レンディーレの事例を通して、生業としての遊牧の維持と変容の実態を具体的に分析し、遊牧がもつ将来性について考察する。



南部アフリカの植物地理と植生の成立機構

南部アフリカの植物相とバイオームは多様である。南部アフリカのフロラの成り立ちは世界の平均的フロラ構成と著しく異なる。また固有種が極めて多い(80%)。フロラが独自の生い立ちを経て発達したことがわかる。ケープ植物界は世界最小の植物界で、面積に対して種類数が極めて多い。1科あたりの属数は他の南部アフリカ地域とほぼ同じで属数が多いとはいえないが、1科あたりの種類数は断トツに多く、比較的新しく種レベルでの分化が進行したといえる。ナミビアのサバンナ植生の分布境界は降水では決まらず、土地条件と優占種の分布が関与している。南部アフリカでは冬季降水量がバイオームの違いをもたらしている。

第190回

2012年10月18日(木)
15:00-17:00

孫 晓刚

筑波大学大学院
生命環境科学研究科 助教



冲津 進

千葉大学
園芸学部
教授

